

●施策を構成する事務事業等の概要

① 事務事業等の名称		H29年度決算	H30年度決算	R元年度予算
介護支援ボランティア事業	事業費(千円)	177	179	400
	所要人員(人)	0.05	0.05	0.06
開始年度	平成 20 年 ~	総コスト(千円)	599	602
事業内容 (平成30年度の活動状況)	<p>高齢者がボランティア活動を通じて社会参加、地域貢献を行うとともに、高齢者自身の健康増進を図る事業として、市が指定する介護事業所等において介護予防ボランティア活動を行った場合に、当該活動実績を評価し、ポイントを付与するもので、本人からの申出により交付金に転換することができる。</p> <p>平成30年度は、149人がボランティア登録をしており、合計179,600円を交付金として転換している。</p>			
【今後の方向性】	⇒ 拡充			
理由等	<p>更なる効果の促進を図るため、今後は、本市が設置を推進している「お互いさまサロン」に対してもボランティア活動の対象となるよう見直しを行い、より多くの高齢者の社会参加を促進していく。</p>			
行政評価会議からの意見	<p>本事業を含めた介護予防事業全体の経費が増大していることを踏まえ、介護予防による医療費の削減効果などの把握に努めた上で、より多くの高齢者が参加できる効果的な事業となるよう、制度の見直しを図る必要がある。</p>	行政評価委員会からの意見	<p>成果指標に掲げる登録者数が目標値を大きく下回っていることや、ボランティア登録者と受入施設との間で本事業に期待する内容に差が生じている現状を踏まえれば、現行の実施方法で事業を継続することには課題が残るため、成果指標も含めて事業内容を効果的なものへと見直ししていく必要がある。</p>	
有☑ 無☐		有☑ 無☐		

② 事務事業等の名称		H29年度決算	H30年度決算	R元年度予算
高齢者喜び農園事業	事業費(千円)	3,800	1,951	3,944
	所要人員(人)	0.12	0.17	0.27
開始年度	昭和 56 年 ~	総コスト(千円)	4,812	3,390
事業内容 (平成30年度の活動状況)	<p>日常生活の中で、園芸を行う機会が少ない地域の高齢者に対し、農園用地を提供することにより、農作物の栽培等を通して高齢者の交流や生きがいの充実とともに健康づくりの推進を図ることを目的としている。</p> <p>平成30年度の利用実績については、都営村山団地又はその周辺の地域に住所を有している60歳以上の市民が、5か所277区画を利用した。</p>			
【今後の方向性】	⇒ 見直し			
理由等	<p>対象者については、都営村山団地又はその周辺の地域に住所を有している60歳以上の者と限られており、利用料も無料であることから、公平性の観点より制度の見直しを検討し、より実態に即した運営を実施していく必要がある。</p>			
行政評価会議からの意見	<p>利用できる地域に住居する方から一定以上のニーズがあることを踏まえ、市全体のニーズの把握に努めた上で、必要に応じて対象地域の拡大を図るなど、公平性の確保に向けた取組を行うことが肝要である。</p>	行政評価委員会からの意見	<p>時代の変化に伴って都営村山団地及びその周辺に住居する60歳以上の市民にのみ無料で農園用地を提供し続けていくことには、公平性の観点から課題が残るため、利用条件を見直ししていくことが肝要である。</p>	
有☑ 無☐		有☑ 無☐		

③ 事務事業等の名称		H29年度決算	H30年度決算	R元年度予算
老人クラブ補助金	事業費(千円)	11,128	10,876	11,910
	所要人員(人)	0.15	0.14	0.15
開始年度	昭和 49 年 ~	総コスト(千円)	12,399	12,057
事業内容 (平成30年度の活動状況)	<p>老人クラブが行う活動を支援するとともに、高齢者の社会活動を促進し、もって老人福祉の増進を図るため、老人クラブの運営に要する経費の一部を補助する。</p> <p>交付対象は、(1)社会奉仕活動、(2)健康づくりを進める活動、(3)生きがいを高める活動、(4)その他の社会活動等である。</p> <p>平成30年度は34クラブに対して、合計10,876,800円の補助金を交付した。</p>			
【今後の方向性】	⇒ 継続			
理由等	<p>クラブ会費だけの運営は困難であるため、補助金を継続することにより、高齢者の社会参加の促進を行う必要がある。</p>			
行政評価会議からの意見		行政評価委員会からの意見	<p>元気な高齢者が積極的に参加できる環境作りに努めるとともに、老人クラブが果たす役割を明確にして活動を充実させていくことが肝要である。</p> <p>また、60歳以上となっている対象年齢を改めて整理した上で、補助金額の妥当性を改めて検討することを求めたい。</p>	
有☐ 無☑		有☑ 無☐		

④ 事務事業等の名称		H29年度決算	H30年度決算	R元年度予算
老人クラブ連合会補助金	事業費(千円)	890	880	1,000
	所要人員(人)	0.12	0.11	0.12
開始年度	昭和 49 年 ~	総コスト(千円)	1,907	1,808
事業内容 (平成30年度の活動状況)	<p>老人クラブ連合会が行う活動を支援するとともに、高齢者の社会活動を促進し、もって老人福祉の増進を図るため、老人クラブ連合会の運営に要する経費の一部を補助する。</p> <p>交付対象は、(1)老人クラブの育成及び指導活動、(2)仲間づくりの促進及び他世代との交流活動、(3)調査、研究及び広報活動、(4)東京都老人クラブ連合会の活動推進員その他の指導者との連携活動、(5)その他の社会活動、(6)健康づくりに係る活動等である。</p> <p>平成30年度は、33クラブが老人クラブ連合会に加入し、会員数は2,402人であった。</p>			
理由等	【今後の方向性】 ⇒ 継続	クラブ会費だけの運営は困難であるため、補助金を継続することにより、高齢者の社会参加の促進を行う必要がある。		
行政評価会議からの意見		行政評価委員会からの意見		
有口 無口		有口 無口		